

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【茨城県】

1 実践テーマ	【 II III 】
2 実施対象者	水戸市立内原小学校 (A) 4年生 (66名), 6年生 (55名) (B) 5年生 (69名), 6年生 (55名), 保護者 (45名参加)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) 2 行事名 () ③ その他 (水戸まごころタイム・道徳・特別活動) (2) 地域における活動 1 イベント名 () 2 その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピック・パラリンピックについての理解を深める。 ・ 障害者スポーツについて理解を深める。 ・ 障害のある方々が、目標をもってスポーツに取り組む姿を通して、スポーツへの関心・意欲をさらに高める。 ・ おもてなしの心とグローバルマナーを身に付ける。
5 取組内容	<p>(事前指導) オリンピック・パラリンピックについての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3～6年全学級で11月中旬に実施 ○ スポーツ庁から配付された教材を活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ DVD「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」 ・ 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」 <p>(A) ブラインドサッカー教室 【日時】平成29年11月24日(金) 【講師】筑波技術大学 福永 克己 先生 (ブラインドサッカー日本代表コーチ) 佐々木ロベルト泉 選手 (ブラインドサッカー日本代表)</p> <p>【日程】・ 9:00～10:00 4年生 (66名) ・ 10:20～11:20 6年生 (55名)</p> <p>【内容】① 佐々木ロベルト泉選手のお話 ・ ブラインドサッカーとの出会い等 ② ブラインドサッカーについての説明 ③ アイマスクをつけての体験 ・ コミュニケーションのとり方</p>

- ④ ブラインドサッカーの体験
 - ・声のかけ方 ・ボディータッチ ・パス ・シュート
- ⑤ まとめの学習
 - ・福永先生、佐々木ロベルト選手からの言葉



(B) 「おもてなしの心」 授業

【実施日】平成29年11月28日(火)

【講師】筑波大学客員教授 江上 いずみ 先生

【日程】12:50~14:30 うち講演90分

【内容】講演「グローバルマナーとおもてなしの心」

~2002年東京オリンピック・パラリンピックに向けて~



6 主な成果

(A) ブラインドサッカー教室について

- スポーツ庁から配付された教材 (DVD, パネル) を使用しての事前学習を行うことで、オリンピック・パラリンピックについての理解を深めることができた。特に、パラリンピックについての映像がとてもわかりやすく、小学生にも理解しやすかった。
- 学習後の感想からも、オリンピック・パラリンピックに対する関心が高まったことがわかる。

<感想例>

- ・佐々木ロベルト選手のお話を聞き、「あきらめない心」を教わりました。目が不自由になっても、あきらめないでがんばればロベルト選手みたいに、日本代表としてプレーできることを知り、ぼくはサッカーをしているので、これからはどんなことでもあきらめずにがんばっていきたくて思いました。
- ・ブラインドサッカーをやってみて、すごく難しいと思いました。でも、目の不自由な方はいつもこんな感じなんだと分かりました。ロベルト選手のお

	<p>話では、仲間とあきらめないことの大切さを学びました。また、私も目の不自由な叔父がいるので、叔父が何かやろうとしたら、手伝ったり、応援してあげたりしたいと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラインドサッカーは助け合いがとっても大事なスポーツだとわかりました。努力をし続ければ、夢は必ずかなうということがわかりました。ぼくは、これを機に、パラリンピックの見方が変わりました。ブラインドサッカーのボールは音が鳴るようになっていて、パラリンピックはだれもが平等で、頭を使うスポーツだと思いました。 <p>(B)「おもてなしの心」授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 元CAとして勤務した経験をもとに、映像をつかったの講演だったため、90分の講演だったが5・6年生でも全く集中をきらすことなく、あっという間に時間が過ぎたようである。 ○ 学習後の感想からも、オリンピック・パラリンピックに向けて「おもてなしの心・グローバルマナー」を備える大切さを学ぶことができたようである。 <p><感想例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもてなし」は「表も裏もなし」という意味で、心から相手をもてなしたいという気持ちが大切ということがわかりました。それにおもてなしは、人のオーダーに応えるだけではなく、プラスで何かをしてあげなければならぬということ学びました。私も、だれかをもてなすことがあったら、その人に合わせて、その人がどのようにしたら気持ちよいかを考えて、おもてなしをしていきたいと思います。 ・おもてなしをするのには、たくさんの「心遣い」・「気配り」・「目配り」がとても大切だと感じました。また、外国の方たちとの文化や習慣の大きな違いに驚きました。車いすの人には、目線を合わせてあいさつしたり、乗客の方には全員に声をかけたりと、細かいところまで相手のことを考えていることがすごいなあと思いました。私も、江上先生から学んだことを生かして、2020オリンピック・パラリンピックでは、真心をもって、外国の方たちをはじめ、たくさんの方たちに接していきたいです。 ・江上先生の講演を聞いて、あいさつの大切さとむずかしさを知ることができました。相手の目を見てするあいさつと、見ないでするあいさつでは、全く伝わり方が変わってしまうことを知りました。おじぎも言葉を言ってからする(分離礼)のと、言葉を言いながらするのとでは、全く印象が違って見えました。これからは、普段何気なくしているあいさつを目線やおじぎなども意識してやっていこうと思いました。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(A) ブラインドサッカー教室について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 十分な体験活動を行うため、4年生・6年生各1時間ずつの教室を設定していただいた。(5年生は、別事業において、元オリンピック陸上選手による授業・陸上教室を実施している。) ○ 佐々木ロベルト選手に語っていただく時間を確保し、障害を克服し、前に向かって進む生き方を学ばせたいと考えた。 ○ 事前に、オリンピック・パラリンピックについての理解を深めるため、スポーツ庁から配付されたDVD・パネルを使用した学習を行ったのは、効果的だった。

	<p>(B)「おもてなしの心」授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講師より十分な内容を確保するため90分の講演にしてほしい旨の依頼があり、給食を早める等により十分な時間を確保することができた。 ○ 保護者へも案内文書を出し、参加を募った。
8主な課題等	<p>(A) ブラインドサッカー教室について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講師謝礼等の予算確保が一番大きな課題。 ○ 講師の依頼方法(どこに連絡し、どのような方法でお願いすればよいのか。) ○ オリンピック関係の選手をお願いするのは、何かの事業に頼らないとかなり難しい。 <p>(B)「おもてなしの心」授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講師謝礼等の予算確保が一番大きな課題。 ○ 講師の依頼方法(どこに連絡し、どのような方法でお願いすればよいのか。) ○ 今回の内容は、もっと多くの保護者にも聞かせたかった。もっと積極的なPRが必要だった。
9来年度以降の実施予定	<p>(A) ブラインドサッカー教室について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予算の課題がクリアできれば、毎年実施したいが、現時点では未定である。 ○ 今回は、ブラインドサッカー教室を実施したので、次年度以降で他の競技(車いすバスケットボール、ボッチャ等)を体験させたい。 <p>(B)「おもてなしの心」授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予算の課題がクリアできれば、2年後に5・6年生(現3・4年生)、保護者に対して、ぜひ講演をお願いしたい。その場合は、今回の反省をもとに、保護者の積極的な参加を促したい。